

## ～産科チェーン使用時のワンポイントアドバイス～

皆さんは分娩介助するときに産科チェーンを使いますか？それとも産科ベルトを使いますか？

私は難産介助では産科ベルトを用いるようにしており、農家さんにも産科ベルトの方をおすすめしてきましたが、今回はとある農家さんでチェーンをかけるときのひと工夫を教えていただいたので産科チェーンを愛用する方に紹介したいと思います。

産科チェーンであれ産科ベルトであれ右の写真のように球節（副蹄のある関節）の上にかけてハンドルや滑車などを使って引っぱる方法が一般的だと思います。



産科チェーンの良い点を挙げると、子牛の足に巻きつけやすいこと、ハンドルを引っ張りやすい位置にかけられて複数で力強く引っ張れること、滑車や助産器につなぐ場合に適度な長さにすぐに調節してつなげれることなどがあるでしょう。

しかし産科チェーンは子牛の足を締め付ける力が非常に強く、母牛の産道が狭かったり胎仔が大きかったりするような難産の部類に入る分娩の場合、力任せに引っ張ってしまうとチェーンをかけているところから子牛の足が骨折することがあります。これを経験したことのある農家さんもいるのではないのでしょうか？



一方、産科ベルトの場合は子牛の足に巻きつく面積がチェーンに比べて大きく、骨にかかる負担が軽減されるため、介助時に子牛が骨折するリスクははかなり減らされます。ですので、通常は産科ベルトおすすめしているわけです。

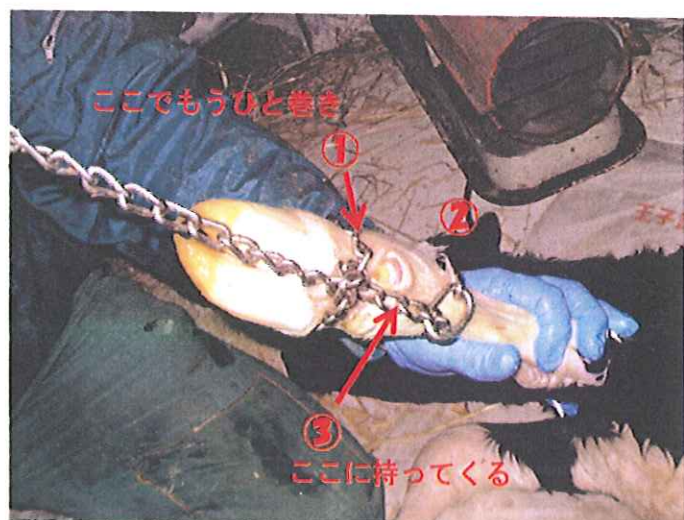


それでも「これまで産科チェーンしか使ったことがない」「骨折なんて起こったことない」「チェーンの方が扱いやすいからチェーンを使いたい」などなど、今後も産科チェーンを使用される農家さんに向けて骨折事故を少しでも減らすためのひと工夫をご紹介します。

工夫とは右の写真のようにチェーンをかけます！

ひと巻きだと骨の一点に力が集中してしまうのでもうひと巻きして骨にかかる力を分散しようということ。

ポイントは①初めに球節の上に通常通りチェーンをかけ、②次にふたつある副蹄の間にチェーンを通し、③最後に球節の下側でひと巻きすることです。この巻き方だとチェーンはズレないし、二つの巻いてあるチェーンにそれぞれ均等に力が分散されます。



## だいたいこんな感じですよ



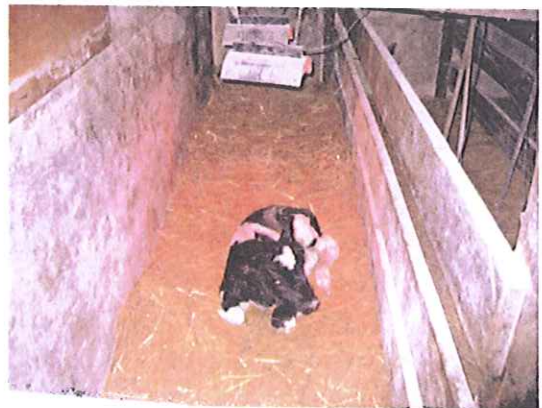
チェーンを愛用されている農家さんはぜひこの巻き方をおこなってみてください。  
母子ともに健康で優しい分娩介助をしましょう。

**PS：産科チェーンは足1本に対して1本、計2本用意し、使用前はパコマ等で消毒してから使  
いましょう**

### 最後に...

産まれた子牛はタオルなどでよく乾かし(特に寒い今は!)  
ヒーターの下で暖めてあげましょう。

分娩後24時間遠赤外線ヒーターで暖めた子牛は体温、  
動脈血ヘモグロビン酸素飽和度、1回換気量、動肺コンプ  
ライアンス、呼吸数がコントロール群(何もしない子牛)より  
有意に改善したという報告もあります。(Uystrup et al. Vet J 2002)



ちなみに今回の産科チェーンのかけ方を教えてくれた農家さんではカ  
ーフハッチを改造してこんなものを取り付けていました。

.....

そう! 冬にお世話になるコタツのヒーター!

電気屋さんに行けばこのヒーターだけ売ってくれるそうです。

遠赤外線ヒーターより安く買えますし、電気代も節約、サーモスタット機  
能もあるので熱くなり過ぎることもないとのこと。



←電気を入れたらこんな感じ

カーフハッチの内面を毛布などで覆えば保温効果も高まるかも.....